＜特別寄稿＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第17回　ズボイシア

ズボイシアはナス科に属する木本です。原産地はオーストラリアで主にオーストリアで栽培されています。

ズボイシアは多くのナス科植物に含まれているトロパンアルカロイドの一種であるヒオスチアミンを含んでいます。

光学活性体のヒオスチアミンは抽出・単離の段階でラセミ化しアトロピンとなります。アトロピンの原料としてはズボイシアの他に、ハシリドコロ、ベラドンナ、ヒヨス、ダツラ、キダチチョウセンアサガオ等が用いられます。

アトロピンの使用量は少なくなっていますが、現在でも局方品として用いられていまして、副交感神経遮断薬として作用するため、胃腸の痙攣性疼痛、痙攣性便秘、胆管・尿管の疝痛、胃・十二指腸潰瘍の分泌・運動亢進、有機燐系殺虫剤の中毒等、又麻酔前投薬として適用されます。アトロピンは副作用も少なく無い薬物で、主なものは抗コリン作用による膀胱平滑筋の弛緩等により排尿を低下させるおそれがあるため前立腺肥大の患者さんには禁忌です。又、抗コリン作用により房水通路が狭くなり眼圧が上昇するため緑内障の患者さんにも禁忌です。

本作品は1800年代末カーラーによるものです。